

ふるさと
岩手町紀行

通りずむ

— 第 41 回 —

通(つう)とは物事をよく知っていること。知る人ぞ知る、岩手町の魅力をお届けしてまいります。



ゆはずFCファイゼンツ

集まれ！輝く新団旗の下に 伝統を誇るサッカースポ少



ゆはずFCファイゼンツ
たかはしりょう
高橋諒キャプテン
(沼宮内小6年)

「岩手町はホッケーが有名ですが、僕たちのようにサッカーで頑張っている小学生も大勢います。町の皆さんの応援、よろしくお願いします」と諒くん

「かつこいい新団旗ができてとてもうれいんです」と満面の笑顔で話すのは「ゆはずFCファイゼンツ」(村田卓代表、団員二十七人)の高橋諒キャプテン。町内のスポーツ少年団では最も早い昭和四十八年に発足した沼宮内サッカースポーツ少年団を前身とする同団は、競技人口の底辺拡大を図ろうと平成十九年四月、団員の募集を全町に拡大。団の名称を、町の名勝「ゆはずの泉」や町鳥のキジを意味する「ファイゼンツ」などを用いて改め、町を代表するサッカースポーツ少年団として新たにスタートを切りました。今年七月には、待望の新団旗を作製。デザインは公募の結果、盛岡市のデザイナー佐々木保さんの案が選ばれました。同団の村田代表は「今後もより多くの選手たちを育て、将来は小学生から社会人までがこの旗と名の下に集い、一緒にサッカーができれば最高です」と抱負を語ります。



エンブレムのデザイン



岩手町

こちらデスクです



62-2111 (内線) 216

編集後記

町の皆さんこんにちは。いつも快く取材に協力していただきありがとうございます。さて、今年も夏が終わろうとしています。梅雨も明けぬままに入ったこの夏は、晴れたかと思えば雨が降り出し、何かと天候に振り回された蒸し暑い夏でしたが、一方では、湿気や雨など一気に蒸発させるような熱い熱い夏でもありました。提供開始からわずか一カ月で十三店舗に拡大した熱々の「いわてまち焼きうどん」、福井県の全国大会で熱い戦いを繰り広げた川口・二方井両中ホッケー部甲子園で最後の最後まで全力で戦い、私たち岩手県民にこの上ない感動と自信をもたらしてくれた菊池雄星投手は、しめ花巻東高の選手たち。決して派手さはないけれど、ひたむきに頑張るのが岩手の風土、岩手の名を冠するわが町こそ、常にその先陣でありたいものです。

(志田)